

## 岩手県アレルギー疾患医療に関する基礎調査結果(簡易集計)

1 実施期間 令和元年11月1日～令和元年11月20日

### 2 調査方法

岩手県内全医療機関780施設を対象に郵送にて自記式質問紙を配布し、ファクシミリまたはメールで回答を得た

※一般診療所689施設、病院91施設（R元.8.1時点東北厚生局公表保健医療機関）

3 回収数 442施設（回収率56.7%）

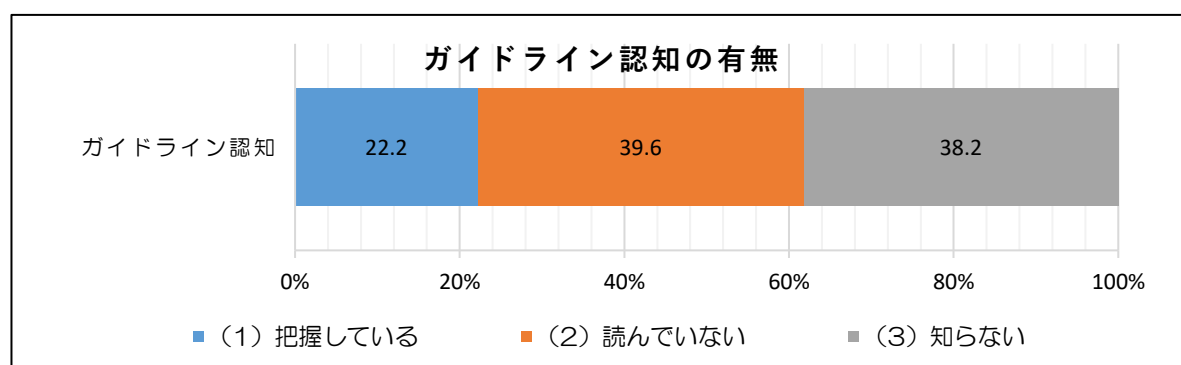
※一般診療所381施設、病院61施設（77診療科）

※全458診療科

### 4 結果

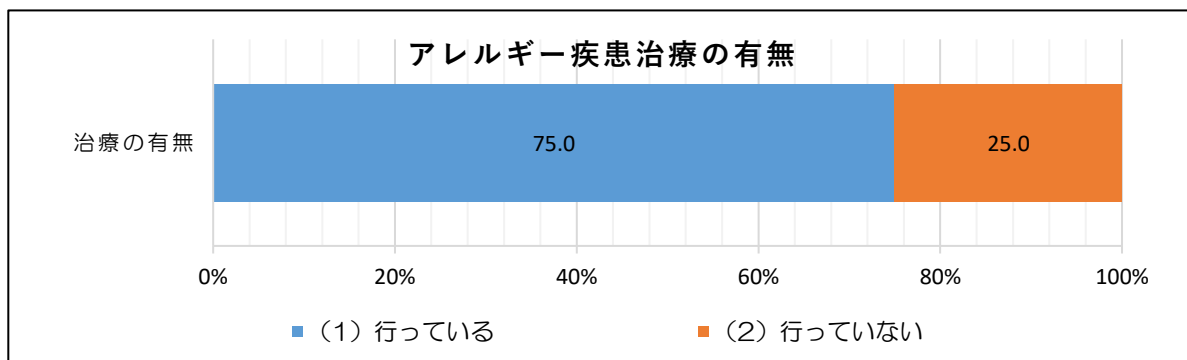
問1 日本アレルギー学会で作成しているガイドラインを知っていますか

	診療科数（%）
(1) 種類・内容を把握している	100 (22.2)
(2) 知っているが読んでいない	178 (39.6)
(3) 知らない	172 (38.2)
(4) 無回答	8
計	458 (100.0)



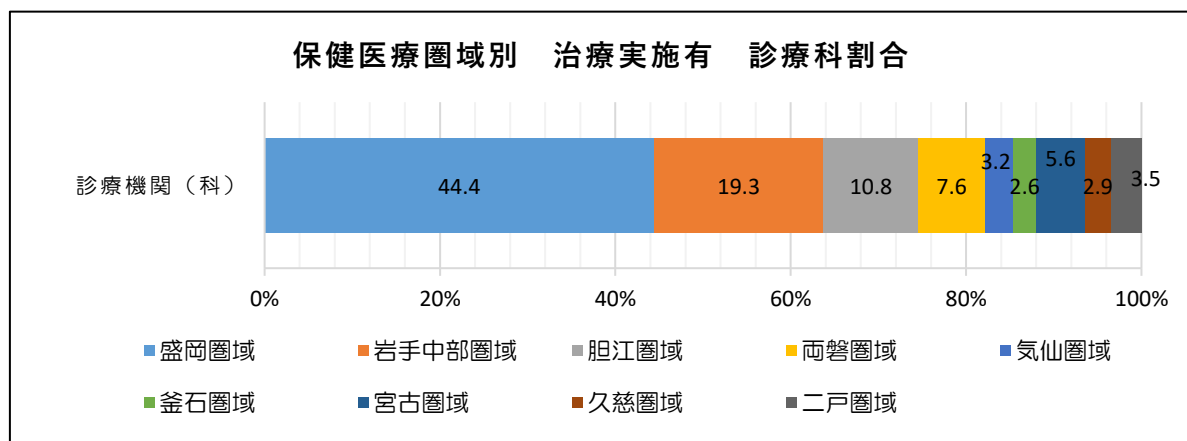
問2 貴医療機関では、アレルギー疾患（「気管支ぜん息」、「アトピー性皮膚炎」、「アレルギー性鼻炎」、「花粉症」、「アレルギー性結膜炎」、「食物アレルギー」）のいずれかの治療を行っていますか

	診療科数 (%)
(1) 行っている	342 (75.0)
(2) 行っていない	114 (25.0)
(3) 無回答	2
計	458 (100.0)



【参考1】保健医療圏域別 治療実施「有」診療科の状況

	診療科数 (%)
盛岡圏域	152 (44.4)
岩手中部圏域	66 (19.3)
胆江圏域	37 (10.8)
両磐圏域	26 (7.6)
気仙圏域	11 (3.2)
釜石圏域	9 (2.6)
宮古圏域	19 (5.6)
久慈圏域	10 (2.9)
二戸圏域	12 (3.5)
計	342 (100.0)



【参考2】治療実施有無別ガイドライン認知状況

	(1) ガイドラインの種類・内容を把握している	(2) ガイドラインを知っているが読んでいない	(3) ガイドラインを知らない
(1) 治療を行っている	95 (28.4)	138 (41.2)	102 (30.4)
(2) 治療を行っていない	4 (3.5)	40 (35.2)	69 (61.1)

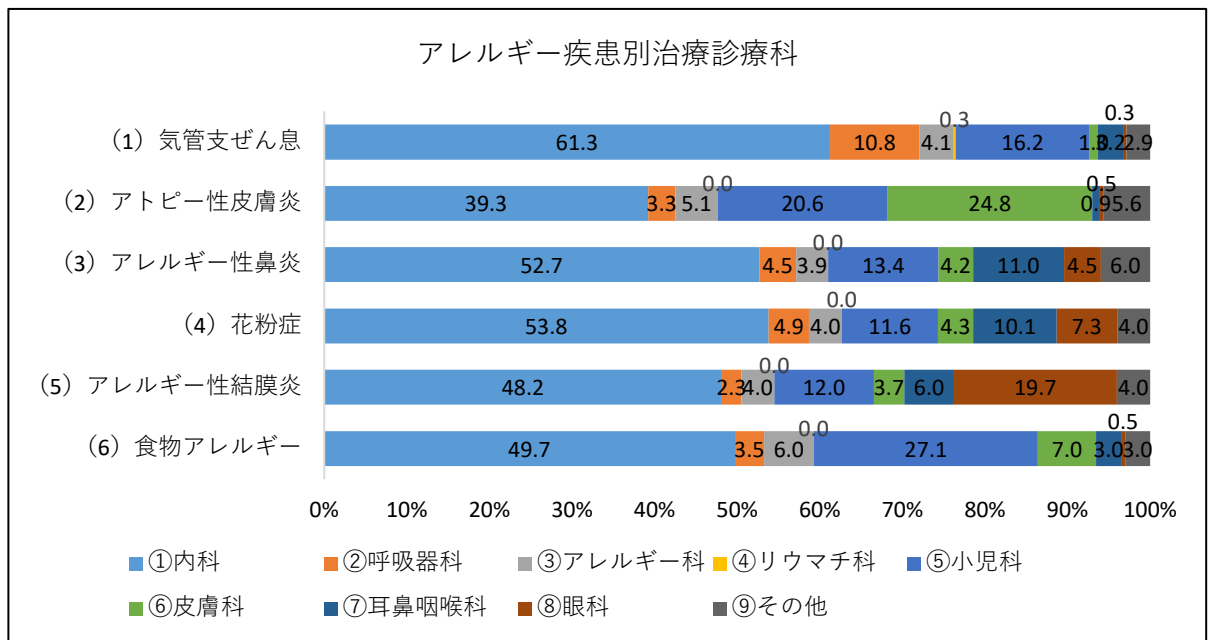
問3 貴医療機関では、アレルギー疾患（上記6疾患）の治療をどの診療科で行っていますか

	①内科	②呼吸器科	③アレルギー科	④リウマチ科	⑤小児科
(1) 気管支ぜん息	193	34	13	1	51
(2) アトピー性皮膚炎	84	7	11	0	44
(3) アレルギー性鼻炎	177	15	13	0	45
(4) 花粉症	176	16	13	0	38
(5) アレルギー性結膜炎	144	7	12	0	36
(6) 食物アレルギー	99	7	12	0	54

	⑥皮膚科	⑦耳鼻咽喉科	⑧眼科	⑨その他	計
(1) 気管支ぜん息	3	10	1	9	315
(2) アトピー性皮膚炎	53	2	1	12	214
(3) アレルギー性鼻炎	14	37	15	20	336
(4) 花粉症	14	33	24	13	327
(5) アレルギー性結膜炎	11	18	59	12	299
(6) 食物アレルギー	14	6	1	6	199

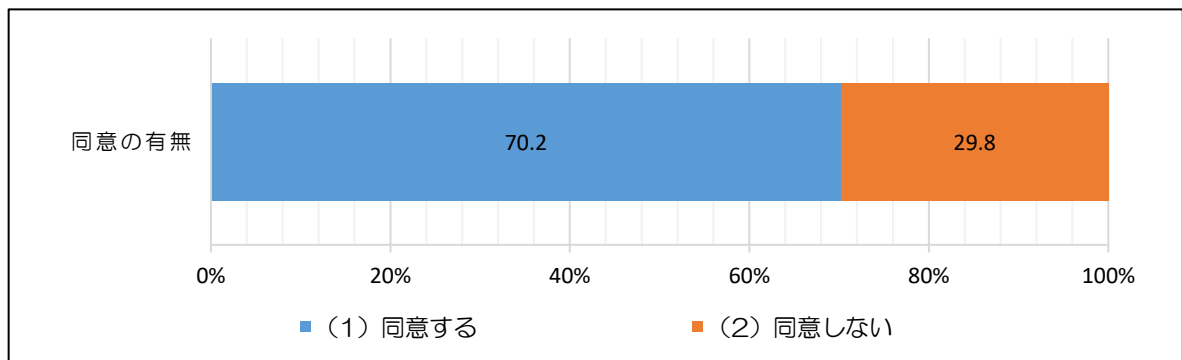
※その他

- (1) 気管支ぜん息：泌尿器科、心療内科、漢方内科、外科、循環器科、精神科  
整形外科、消化器内科
- (2) アトピー性皮膚炎：泌尿器科、整形外科、心療内科、外科、精神科、  
漢方内科、小児科・皮膚科を紹介
- (3) アレルギー性鼻炎：整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、心療内科  
精神科、漢方内科、外科、消化器内科
- (4) 花粉症：脳神経外科、心療内科、産婦人科、精神科、漢方内科、整形外科
- (5) アレルギー性結膜炎：心療内科、産婦人科、脳神経外科、精神科、漢方内科、  
外科、泌尿器科
- (6) 食物アレルギー：消化器科、外科、精神科、漢方内科、整形外科、



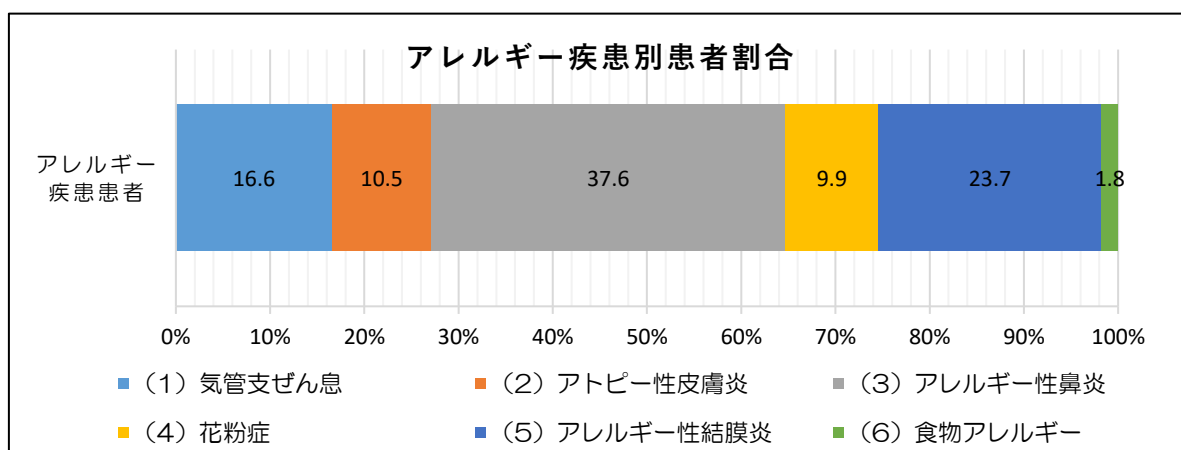
問4 岩手県アレルギー医療機関ネットワーク整備にかかる公表資料及びアレルギー疾患相談者に対する情報提供に貴医療機関の診療体制状況等を使用することに御同意いただけますか

	診療科数 (%)
(1) 同意する	231 (70.2)
(2) 同意しない	98 (29.8)
(3) 無回答	13
計	342 (100.0)



問5 貴医療機関（科）における以下のアレルギー疾患治療実患者数を教えてください

	診療科数	患者数（％）
(1) 気管支ぜん息	237	48,287 (16.6)
(2) アトピー性皮膚炎	164	30,490 (10.5)
(3) アレルギー性鼻炎	264	109,279 (37.6)
(4) 花粉症	196	28,640 (9.9)
(5) アレルギー性結膜炎	248	68,829 (23.7)
(6) 食物アレルギー	134	5,140 (1.8)
計		290,665 (100.0)



問6 貴科における「日本アレルギー学会のアレルギー専門医教育研修施設」認定の有無について教えてください

	診療科数
(1) 認定されている	2
(2) 認定されていない	343
(3) 無回答	113
計	458

問7 問6の施設に認定されている診療科名に○をつけ、回答日時点での認定有効期間をご記入ください

	診療科数	期間
(1) 内科系	1	R3.3.31
(2) 小児科系	—	
(3) 皮膚科系	—	
(4) 耳鼻咽喉科系	—	
(5) 眼科系	—	
(6) 未記入	1	
計	2	

問8 各診療科に在籍する日本アレルギー学会専門医（指導医含む）数をご記入ください

	常勤専門 医	非常勤専 門医
(1) 内科系	14	1
(2) 小児科系	4	1
(3) 皮膚科系	3	2
(4) 耳鼻咽喉科系	0	2
(5) 眼科系	3	2
計	24	8

※専門医のいる保健医療圏域

- ・内科系 盛岡圏域、岩手中部圏域、胆江圏域、両磐圏域、宮古圏域、二戸圏域
- ・小児科系 盛岡圏域、岩手中部圏域
- ・皮膚科系 盛岡圏域、岩手中部圏域、胆江圏域、両磐圏域
- ・二次咽喉科系 二戸圏域
- ・眼科系 盛岡圏域、岩手中部圏域

問9 貴医療機関（科）における可能な検査項目について教えてください（実施しているものすべてに○をつけてください）

	診療科数
(1) 血液検査（RAST）	300
(2) 肺機能検査	119
(3) 呼気NO検査	24
(4) 呼吸抵抗検査	7
(5) 気道過敏性試験	3
(6) プリックテスト	10
(7) パッチテスト	23
(8) その他	19

※（8）その他

涙液中のIgE測定、涙液アレルギー反応検査（IGE測定）、鼻汁好酸球検査（ハンセル）、食物経口不耐試験、TARC、血液によるアレルゲン検査、DLST、皮内テスト、アレルゲンテスト、ピークフローメーター、血液検査MAST

問10 貴医療機関（科）における「食物経口負荷試験（外来・入医療機関）の実施の有無と、「実施」している場合の平成30年度における実施件数についてご記入ください

	実施有		実施無	計
		実施件数		
(1) 外来食物経口負荷試験	12	274	299	311
(2) 入院食物経口負荷試験	3	189	293	296

※主な実施診療科：小児科、病院（診療科不明）

問11 貴医療機関（科）における「アレルギー免疫療法（舌下・皮下）」の実施の有無と、「実施」している場合の平成30年度における症例数についてご記入ください

	実施有		未実施	計
		実施件数		
(1) 舌下免疫療法	39	779	273	312
(2) 皮下免疫療法	7	209	298	305

※主な実施診療科：小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、病院（診療科不明）

問12 貴医療機関（科）におけるアナフィラキシーに関する対応を行っていますか

(1) エピペンの処方

実施	未実施	無回答	計
147	188	6	341

(2) 「貴医療機関の受診歴がある」場合

①いつでも も対応可	②診療時間内 対応可	③曜日に より可	④不可	⑤その他
33	120	8	122	11

※⑤その他

- ・連絡さえつけば可能
- ・診察中に対応
- ・エピペンは診察中に緊急に対応するために準備しているだけ
- ・平日午後予約制
- ・皮膚科のみ
- ・電話で予約
- ・明らかなアナフィラキシーでは救急7万人指導
- ・入院患者に限定
- ・研修受講済み医師がいれば可
- ・アナフィラキシーの原因により
- ・事前予約制

(3) 「貴医療機関の受診歴がない」場合

①いつでも も対応可	②診療時間内 対応可	③曜日に より可	④不可	⑤その他
27	95	6	168	8

※⑤その他

- ・連絡さえつければ可能
- ・エピペンは診察中に緊急に対応するために準備しているだけ
- ・皮膚科にて相談願います ・電話で予約
- ・アナフィラキシー時、救急7万人指導
- ・研修受講済み医師がいれば可 ・アナフィラキシーの原因により
- ・事前予約制 ・救急センター受診指示

(4) 「アレルギー疾患患者」に対するエピペン自己注射の指導管理の実施

実施の有無	①実施	②未実施	計
	134	189	323

実施者の職種	医師	薬剤師	看護師	管理栄養士	その他
	115	23	43	0	3

※その他：教師、調剤薬局薬剤師、保健師

**問13 貴医療機関（科）では診療報酬算定の有無に関わらず、医師以外の医療スタッフによるアレルギー疾患患者に対する指導を行っていますか。実施している場合は、実施者の職種全てに○をつけ、（ ）内に平均指導時間を記入してください（直近1年間の状況について）。**

**また、実施者の内、小児アレルギーエデュケーターの資格を有する人数を（ ）内にご記入ください**

(1) スキンケア指導

①実施	②未実施	計
36	295	331

実施者の職種	医師	薬剤師	看護師	管理栄養士	計
	3	2	30	0	35
総指導時間数（分）	不明	十数分	331	—	
小児アレルギーエデュケーター数	—	—	—	—	

※指導時間 ・20分未満 26診療機関（科） ・20分以上 3診療機関（科）



(2) アレルギー疾患治療薬服薬指導

①実施	②未実施	計
55	274	329

実施者の職種

医師	薬剤師	看護師	管理栄養士	計
0	19	30	0	49

総指導時間数（分）

－	303	347	－	
---	-----	-----	---	--

小児アレルギーエデュケーター数

－	－	－	－	
---	---	---	---	--

※指導時間 ・ 20分未満 39診療機関（科） ・ 20分以上 8診療機関（科）

(3) 食物アレルギーに関する栄養指導

①実施	②未実施	計
22	306	328

実施者の職種

医師	薬剤師	看護師	管理栄養士	計
4	31	16	5	56

総指導時間数（分）

不明	不明	168	115	
----	----	-----	-----	--

小児アレルギーエデュケーター数

－	－	－	－	
---	---	---	---	--

※指導時間 ・ 20分未満 12診療機関（科） ・ 20分以上 6診療機関（科）

問14 貴医療機関（科）での診療にアレルギーに関する学会で作成しているガイドラインを活用していますか。活用している場合は、ガイドライン全てについてご記入ください

	診療科数
(1) 活用している	78
(2) 活用していない	240
計	318

※活用しているガイドライン

- ・アレルギー総合ガイドライン
- ・喘息予防・管理ガイドライン
- ・小児気管支喘息治療管理ガイドライン2017
- ・難病性喘息診断と治療の手引き2019
- ・喘息とCOPDのオーバーラップ診断と治療の手引き2018
- ・気管支喘息診療ガイドライン
- ・日本アレルギー学会喘息ガイドライン
- ・重症喘息－定義・評価・治療に関するERS/ATSガイドライン日本語版
- ・食物アレルギー診療ガイドライン2016（2018改定版）
- ・食物アレルギー経口負荷試験ガイドライン
- ・アトピー性皮膚炎ガイドライン2018
- ・日本皮膚科学会接触皮膚炎ガイドライン
- ・アナフィラキシーガイドライン
- ・アレルギー性鼻炎ガイドライン2016
- ・鼻アレルギー診療ガイドライン
- ・鼻アレルギー診療ガイドライン－通年性鼻炎と花粉症
- ・耳鼻咽喉科ガイドライン活用術
- ・アレルギー性結膜炎疾患ガイドライン（2版）
- ・小児アレルギー疾患総合ガイドライン
- ・ダニアレルギーにおけるアレルゲン免疫療法の手引き
- ・特殊アレルギーの診療の手引き
- ・職業性アレルギー疾患診療ガイドライン2016
- ・骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン
- ・高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン
- ・蕁麻疹診療ガイドライン

問15 貴医療機関（科）では、地域住民等を対象としたアレルギー疾患に関する研修会または講演会を行っていますか。実施している場合は、平成30年度の実施回数についてご記入ください

	診療科数
(1) 未実施	335
(2) 実施している	7
実施回数	7～8回

問16 貴医療機関（科）では、地域住民等を対象としたアレルギー疾患に関する電話相談を行っていますか。実施している場合は、平成30年度の相談件数についてご記入ください

	診療科数
(1) 未実施	336
(2) 実施している	6
実施回数	約110回

問17 貴医療機関では、学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）を記載していますか。  
記載しているもの全てに○をつけてください

	診療科数		
(1) 記載していない	234		
(2) 記載している	107		
記載内訳	①保育所等施設用	②学校用	③その他
	66	101	4